

KPOS JPOA exchange fellowship

静岡県立こども病院整形外科

芳賀 信彦

2003年11月の第14回学術集会(齊藤進会長)において最優秀ポスター賞を頂き、KPOS JPOA exchange fellowとして2004年11月に韓国ソウルを訪問しました。病院訪問およびKorean Pediatric Orthopaedic Society(KPOS)秋の学術集会での演題発表を行ってきましたので、報告いたします。

韓国には11月8～14日まで滞在しました。前年のexchange fellowである福岡真二先生(福岡県粕屋新光園)から情報を頂き、先方にKPOS学術集会の前に病院・手術見学をしたいことを早めに伝えておくことができました。結果的には丸1週間、Seoul National Universityの小児整形外科部門の先生方に歓迎していただき、すべての面でお世話になりました。

まず8日は、SNUCH(Seoul National University Children's Hospital)に、In Ho Choi教授を訪ねご挨拶しました(写真1, 2)。ここでは他に2名のスタッフ(助教授のDr. Tae Joon Cho, Dr. Woo Joon Yoo)、クリニカルフェロー1名、レジデント4名が働いています。SNUCHの建っている敷地は、元々Seoul National University全体があったとこ



写真 1. Seoul National University Children's Hospital. 現在階層毎に内装工事を進めているとのこと



写真 2. In Ho Choi 教授の教授室にて最終日に記念撮影。前列は齊藤教授。後列右より藤井先生、Choi 教授、Se Dong Kim KPOS 会長、筆者



写真 3.
Seoul National University Bundang Hospital のロビー。ホテルか飛行場のような近代的な佇まい

ろで、医学部以外の学部が移転した後に、医学部、大学病院、小児病院、歯学部および附属病院、研究棟などが配置されています。従って敷地には余裕があり、すべての建物は地下でつながっています。Choi 教授は 10 回の来日歴があり、私も何度か学会でお見かけしていました。大変気さくな先生で、この後も手術の細かいテクニックなども含め、多くのことを教えてくれました。

9 日は Seoul National University Hospital の分院ともいうべき SNUBH (Seoul National University Bundang Hospital) を訪問しました。Bundang は増加するソウルの人口を分散させるために計画的に作った町で、ソウルの南約 33 km にあります。病院は昨年開院したばかりの近代的なもので(写真 3)、電子カルテシステムを導入し、完全ペーパーレス・フィルムレスになっています (Seoul National University Hospital も今春から同システムを導入)。ここでは Chin Youb Chung 教授の手術に参加しました。

Chung 教授は小児整形外科の中でも神経筋疾患、特に脳性麻痺が専門で、韓国には脳性麻痺を専門にする整形外科医は他にいないため、手術の waiting list は 500 人に及ぶということです。最近 SNUBH の副院長になり、KPOS の secretary でもあり大変多忙でした。小児整形外科部門には、Chung 教授の他にクリニカルフェロー 1 名、レジデント 2 名がいます。この日 Chung 教授の手術は 7 件予定されていましたが、風邪で脳性麻痺の 1 件がキャンセルになりました。まず、DDH 徒手整復後のギプス巻き替えを見学、次に二分脊椎の 6 歳児に対する右股関節脱臼、左亜脱臼に対する両側 DVO、右 Dega osteotomy に手洗いして入らせてもらいました。まず両側 DVO を行いましたが、彼は減捻角度のコントロールのため DVO を腹臥位で行っていました。大変スピーディーな手術で、閉創はフェローとレジデントが行いますが、骨切り終了まで片側 25~30 分でした。次に仰臥位にして Dega osteotomy に移ります。骨切り部の間隙に腸骨からの骨移植に allograft を併用していたのが印象的でした。これは rigid fixation により早期 ROM 訓練を行うためだそうで、術後



写真 4.

都羅山(ドラサン)展望台から北朝鮮を望む。写真撮影は決められた範囲内でのみ認められている

のギプスも股関節を直接固定せず、BK ギプスを棒でつなぎ外転外旋を保つだけでした。なお2 期的に外腹斜筋移行を行うとのことです。この後、Chung 教授はレジデントと残りの手術を行い、私はクリニカルフェローの Dr. Moon Seok Park と近隣の Korean Folk Village を見学しました。主に 19 世紀の家や役所などが再現されている広大な施設でした。

10 日は午前中、Seoul National University Hospital にて Choi 教授の手術を見学しました。脚延長手術初期の頃の軟骨無形成症例で、大腿骨の外反変形と脚短縮残存に対し Ilizarov を行いました。教授の手術のためか、助手、レジデントを含め 6 名が参加、あっちこっちから手が出て、ヒンジをつけて下腿までフレームを含める複雑な手術を約 2 時間半で終了しました。午後は Choi 教授の回診につきました。まずカンファランスで術前術後の症例を検討しました。またあらかじめ私が骨系統疾患にも興味があることを伝えてあり、助教授の Dr. Tae Joon Cho も同様であることから、お互いに骨系統疾患の症例呈示を行い、discussion しました。Dr. Cho と私は同じ年ということもあり、この後も骨系統疾患などについて多くの話をする事ができ、今後も症例の相談などをしていこうということになりました。その後 25 床の小児整形外科病棟を回診しました。

11 日は SNUCH で Choi 教授の手術を見学しました。① 先天性下腿後彎症の 4 歳児で、脚長差と変形に対する Ilizarov、② 習慣性膝蓋骨脱臼の 5 歳児に対する軟部組織手術、③ 骨髄炎後の大腿骨外反変形(8 歳)に対する、オリジナルの unilateral fixator に Ilizarov リングを組み合わせたハイブリッド手術、の 3 件です。この日の午後には、翌日からの KPOS に日本から招待されていた斉藤進教授(昭和大学藤が丘病院)、藤井敏男先生(福岡市立こども病院)が到着し、夜は KPOS の会長 Se Dong Kim 教授はじめ board member と韓国宮廷料理での会食がありました。

12, 13 日は KPOS の学術集会在 SNUCH の講堂で行われますが、13 日の午前を除いて

は韓国語でのレジデント向けの教育研修講演です。そこでわれわれ日本人3名は12日の午前中、北朝鮮との国境の非武装地帯へのツアーに参加しました。有名な板門店ではないのですが、北朝鮮がソウルに向けて掘っていた地下トンネル(第3トンネル)、北朝鮮を望むことができる都羅山(ドラサン)展望台(写真4)などを廻りました。午後には学会場に戻り、斉藤先生は日本小児整形外科学会のBlount病マルチセンタースタディーの報告をしました。

13日はいよいよ今回の訪問の主目的である演題発表です。この日の午前中は、韓国内からの発表は症例報告が中心なのですが、私は会長から20分間を与えられていたため、先天性下腿偽関節症の病理組織像、術前の装具治療の効果、Ilizarov法による治療の成績を口演しました。韓国でも本症の治療はIlizarov法が中心で、いくつか質問もありましたが、無事に終わりほっとしました。斉藤先生は先天股に関する講演、藤井先生は二分脊椎の股関節脱臼に関する報告を行いました。午後は日本語を話せる韓国人ガイドについてもらい、ソウル市内の景福宮(キョンボックン、朝鮮王朝時代の王宮)と、同じ敷地内の国立民族博物館を見学しました。

このような日程をこなし、14日、無事に帰国しました。詳しくは書きませんが、この間、昼食、夕食は私が飽きないようにと、いろいろな韓国料理はもちろん、中華料理、日本料理、イタリア料理と毎週馳走していただきました。連日、朝は7時位から夜遅くまでフルスケジュールの滞在でしたが、大変充実した時間を過ごすことができました。隣国のハイレベルの小児整形外科を目の当たりにし、自らをより磨き上げる気持ちが湧いてきました。SNUCHのクリニカルフェローであるDr. Ki Seok Leeとよく話したのですが、子供の時から受験戦争はもちろん、医師としてステップアップしていくための競争は激しいようで、韓国の医療レベルの高さは当然のことと思いました。最後にこのような貴重な経験をさせて頂き、KPOS、JPOA両学会のメンバーに深く御礼申し上げます。次回以降も是非、日本の若い整形外科医が韓国との友好を深めていくことを期待しています。